

利根・沼田の教育

発行所 利根教育事務所
 発行人 横坂 隆司
 〒 378-0031 沼田市薄根町 4412 番地
 TEL 0278-23-0165 FAX 0278-23-0180
 E-mail : tonekyou@pref.gunma.lg.jp

子どもの心に寄り添って

利根教育事務所 管理主監 田村 義和

今年度、管内のある道徳の授業を参観させていただきました。低学年の「友情・信頼・助け合い」を主題とした授業でした。指導されている先生が子どもの意見を引き出そうとしていることと、その先生は、穏やかでにこやかな表情をその子に向けて、その子のペースに合わせてじっくりと、その子が発する言葉を待っていました。しばらくの間の後に、その子は「オオカミさんがかわいそうだから」とつぶやくように言いました。その先生は、笑顔でうなずきながら、その言葉を繰り返し、黒板にその子の言葉をそのまま書きました。子どもたちを温かな空気で包み込むような、とてもいい雰囲気での授業でした。

一方、こんな話があります。A先生が職員室でパソコンに向かって、提出する書類を作成していました。そこへ、生徒のNさんが緊張した面持ちで入ってきて「A先生、ちょっと相談が・・・」と小さな声で話かけました。するとA先生は「ごめん。忙しいので後でいいかな」とパソコンの画面を見たまま早口で返事をしました。Nさんは小さな声で「あっ、はい」と応え、少しうつむいて職員室を出て行きました。その後、NさんからA先生に何か相談に来ることはありませんでした。

これは、実在の話ではありませんが、もしも実際にあったとしたら、A先生は、相談の入り口を閉ざし、大事な生徒との信頼関係を自ら断ち切ってしまったと思います。

私たちは皆、情熱と使命感をもって教師になったと思います。その情熱と使命感は、具体的にはどんな形になって表れているのでしょうか。子どもの側に立った子どものための授業、子どもの心に響く生徒指導など、子どもの心に寄り添った指導として表れているのだと思います。道徳の授業を指導された、その先生のように。

生涯学習係 『人権教育の充実に向けて ～参加体験型学習を取り入れて～』

生涯学習係では、PTA(先生方を含む)や社会教育関係団体等の方々を対象にした人権教育(社会教育)指導者研修会を開催したり、管内の小・中学校で参加体験型学習の出前講座を行ったりして、人権教育の充実に向けた取組を行っています。参加体験型の人権学習は、一人一人の気付きや考えにふれながら、自他を大切にするなどの人権感覚を高められるので、その例を紹介します。

【参加体験型学習の進め方の例】 ※ファシリテーター(進行役)が一人一人の思いや考えを引き出しながら学習を進めます。

①

【アイスブレイキング】参加者の緊張感をほぐし、主体的に参加できる雰囲気をつくれます。

②

【アクティビティ】

アクティビティとは、学習活動のことです。参加者が意欲をもって取り組むことのできるアクティビティをいくつか設定し、効果的に組み合わせます。

③

【話し合い・発表】

参加者が互いの気付きや考えを発表し、共有しながら学習内容を深めます。ファシリテーターは、それらを整理したり、発表内容に対する意見を求めたりします。

④

【振り返り】

アクティビティを通して分かったことや理解が深まったことなどを実際の行動に移せるように、振り返る時間を設けます。

「ある1枚の写真」を使用したアクティビティの具体例



写真の小学生
赤い靴、赤い服
黒いランドセル

写真の小学生は男の子か女の子か質問し、その理由を聞いてみます。

提示した写真の小学生は、女の子であり、黒いランドセルは亡くなった兄の形見であると伝えます。

事実を聞いて気付いたことや考えたことを発表してもらいます。生徒の意見を、「なるほどね、他の人はどうでしょう」と受け止めて全体に返します。

思い込みや決めつけは、誰にでもあることを確認し、それが日常生活において偏見や差別につながっていないかみんなで考えます。



人によって見方や考え方が違うことに改めて気付き、その人の立場になって認め合うことが大切だと感じました。

校内研修や人権学習に、参加体験型学習の出前講座(社会教育主事等派遣事業)を御活用ください。



外国語活動が必修になって5年！授業で悩んでいることはありますか？

自信がなくて、ついALTの先生にお任せになってしまいます…。

先生方が「外国語活動」の授業に自信をもてないと、新たな英語教育の充実は難しいですね。まずは、現行の「外国語活動」を充実させましょう。そのためのポイントを紹介します。



小学校<ポイント1> 職員研修を利用して全員で共通の授業イメージをつかもう！

※H32年度からの全面实施(先行実施はH30年度～)により、3年生以上の担任は全員授業をする可能性があります。



どのようにして共通の授業イメージをつかむのですか？

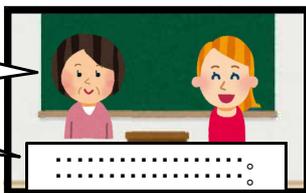
文部科学省が制作した「映像資料」を活用すれば、教材の取り上げ方や子どもと教師の関わり方のイメージを共有できます。

公開授業にも積極的に参加して取組の内容を学校に持ち帰り、みんなに紹介することも大切ですね！



【映像資料の例】「新学習指導要領に対応した外国語活動及び外国語科の授業実践事例映像資料(小学校版)」(平成22年度・24年度・25年度)

担任の先生は、英語だけでなく、日本語も使って説明しています。



授業のポイントはテロップで示されます。

イメージがつかめたら、同じような流れで授業をしてみましょう！

授業映像の後には、文部科学省教科調査官による外国語活動の指導のポイントの解説もあります。

※外国語活動主任と校内研修主任が協力して企画しましょう。
※群馬県教育委員会の「外国語活動の手引き」(平成23年3月)も併せて使うと効果的です。

小学校<ポイント2> 「教室で使える英語表現」を少しずつ増やそう！



発音が心配で、なかなか話せないのですが…。授業は英語で進めるんですよね？

安心してください。まずは単元で扱う「中心となる表現」を確認しましょう。正確な発音や文法よりも、外国語を通してコミュニケーションする楽しさを教えることを重視しましょう。

それができたら、あいさつや日付など毎回使う表現を英語で言えるようにしましょう。「教室で使える英語表現集」もあります。慣れてきたら少しずつ日本語を減らしましょう。



それならできそうです！



【「教室で使える英語表現集」の例】「群馬県版小学校英語教育カリキュラム案 英語表現集」(音声付き)

あいさつ、日付など

みなさん、こんにちは。
Hello, everyone.

今日は何月何日ですか？
What's the date today?

ほめる、励ます

よくできました！
Great!/Well done!/Good job!

よく頑張ったね！
Nice try!

指示を出す

よく聞いてください。
Listen carefully.

手を挙げてください。
Raise your hand.

中学校<ポイント> 小学校での学習経験を中学校の授業に生かそう！



中学校でも小学校と同じような活動をしていませんか？

同じような活動でもレベルの違いを意識しています。

Great！ 小学校で「どんな英語の表現を学習してきたか」「どんな活動に取り組んできたか」などの学習経験を把握して、英語授業の質を高めましょう。

※同じ活動を同じレベルで行うのではなく、小学校で学んだことを繰り返しながら発展させていくことが重要です。

【言語の使用場面が同じ「道案内」の例】「学習指導要領解説 外国語活動編 外国語編」



◆小学校「外国語活動」◆

A : Where is the post office?
B : Go straight. Turn left / right.

事実を伝える単純な表現



◆中学校「英語」◆

A : Excuse me. Is there a police station near here?
B : I'm sorry, I don't know. I am a visitor here.

よりていねいな応答表現
(答えられない状況も示してコミュニケーションの幅を広げた例)